



## あさかの里の50年の歩み

1974 昭和 49 年 9 月	賃貸アパートでの共同生活を開始…あさかの里の活動の始まり
1975 昭和 50 年 8 月	任意団体「郡山社会事業協会あさかの里」設立 「共同住宅」の運営
1979 昭和 54 年 4 月	社団法人郡山社会事業協会あさかの里 設立認可
1980 昭和 55 年 9 月	針生ヶ丘病院内に売店設置・運営
1985 昭和 60 年 2 月	<b>創立 10 周年記念式典 開催</b>
1989 平成元年 9 月	共同作業所あさかの里暁紫舎 開設
1994 平成 6 年 11 月	グループホーム開成寮 開設(共同住居より移行)
12 月	共同作業所あさかの里第二暁紫舎 開設
1995 平成 7 年 11 月	グループホーム菜の花寮 開設
1996 平成 8 年 9 月	グループホームひまわり寮 開設
1998 平成 10 年 4 月	共同作業所すまいる 開設(針生ヶ丘病院内売店)
2000 平成 12 年 5 月	グループホームさくら寮 開設
8 月	共同作業所キャンバス・あさかの里地域活動センター開設
2003 平成 15 年 4 月	小規模通所授産施設あさかの里暁紫舎 開設 (共同作業所より移行)
2004 平成 16 年 4 月	小規模通所授産施設あさかの里第二暁紫舎 開設 (共同作業所より移行)
11 月 20 日	<b>創立 30 周年記念式典 開催 ビッグパレットふくしま</b>
2006 平成 18 年 10 月	障害者自立支援法により、指定共同生活援助事業 あさかの里開成寮開設
2007 平成 19 年 10 月	指定就労継続支援 B 型事業すまいる・キャンバス開設 (共同作業所より移行)
2008 平成 20 年 11 月	グループホーム花みずき寮・第2花みずき寮 開設
2010 平成 22 年 4 月	指定就労継続支援 B 型事業あさかの里暁紫舎 開設 (小規模授産施設より移行)
2011 平成 23 年 3 月	東日本大震災 発生
2011 平成 23 年 4 月	グループホームあおば寮 開設
2012 平成 24 年 4 月	指定就労継続支援 B 型事業あさかの里第二暁紫舎 開設 (小規模授産施設より移行)
7 月	法人事務所・第二暁紫舎 新施設竣工完成 供用開始
2013 平成 25 年 11 月 15 日	社会福祉法人 郡山社会事業協会あさかの里 設立認可
11 月 30 日	<b>社団法人 解散 社会福祉法人へ事業を移行</b>
2015 平成 27 年 4 月	特定相談支援事業所あさかの里相談支援センター あらいぶ 開設
2018 平成 30 年 7 月	自立生活援助事業所 ぱれっと 開設
2021 令和 3 年 12 月	第 2 はなみずき寮 閉所
2022 令和 4 年 3 月	キャンバス閉所
2024 令和 6 年 11 月 16 日	<b>創立 50 周年記念式典 開催 ビッグパレットふくしま</b>

## あさかの里創立50周年を迎えて

吉田仁一

あさかの里創立50周年おめでとうございます。

私があさかの里に参加させていただいたのは昭和57年、あさかホスピタルにソーシャルワーカーとして働き始めて間もない時で、今後患者さんの社会復帰を積極的に展開しようとしている時期でもありました。当時は精神障害者を支える制度などは十分でなく、障害者の地域生活支援を実践するには難しい問題を含んでいました。

そんな中でのあさかの里の実践はとても新鮮で力強く、勇気づけられることも多々ありました。「生きられる場所」の実践は容易なものではなかったはずですが、それでもあさかの里として事業が継続してきたことは、多くの方々のご理解とご協力を頂けたこと。そして、スタッフ・利用者の皆さんの熱意と誠意があったからだと思います。

スタッフや利用者の思いを一つ一つ積み上げていく作業はとても夢があり、楽しさを感じたことを思い出します。これまで制度や社会情勢の変化などに戸惑いながらも創意工夫を重ね継続してきたこの活動が、平成25年には社会福祉法人となり、社会的役割とその責任をより求められることとなったわけです。近年、いろいろな事柄がこれまでとは違った形で表れ、その変化のスピードも加速しているように感じます。これからもこれまで積み上げてきた実践を糧として、新たな展開に向け踏み出していだければと願っています。

## 『あさかの里50周年によせて』

川瀬 美紀子

あさかの里50周年おめでとうございます。

30周年のお祝いがついこの前だったような気がします。年の経つのは本当に早いものだと実感しております。

遠い昔に思いを馳せてみますとあさかの里には平成2年6月より事務員として緊急着任いたしました。簡単な会計、電話番、雑用係ということでしたがそのいずれの経験も知識もなく右往左往する毎日でした。病気の事、障害・福祉の事ほとんど分からず、しかしメンバーさんと毎日接し一緒に考え悩み話をしていくことにより少しずつメンバーさんから学んでいく事が出来たと思います。

当時、針生ヶ丘病院内に売店と共同住居開成寮があり、月一回の合同ミーティングを開いていて、その時はカレーライスをみんなで食べようという事になり、元板前だったという彼が調理を引き受けてくれたので、三千円を渡しました。時間になったので行ってみますと、食欲をそそるカレーの匂いもせず、台所に行ってみると鍋にスープのようなものはあるけど…。床の隅に豚の骨がてんこもりまとめてありました。どうやら出汁だけをとったようです。それから急いで普通のカレーを作って何とか間に合ったのですが打ち合わせが不十分だったり彼の意見もよく聞くべきだった等反省すべき事が多々ありました。その後、障害者総合支援法の下、開成寮がグループホームとして認可となり毎年のように新しいグループホームの設置、第二暁紫舎増設、事務所の移転等次から次へと怒涛のように押し寄せスタッフ一丸となり無我夢中で取り組んで来ました。

その忙しい中でもハイキングクラブで休日に希望者を募り鎌沼、一切経山、安達太良山、那須朝日岳、雄国沼などトレッキング登山を楽しみました。障がい者スポーツ大会では個人競技卓球はあさかの里メンバー同士の決勝だったり、ソフトバレーでは東北大会まで出場したこともあり。当日は作業所を休んで全員で応援に来てくれて珍プレー好プレーありとてもエキサイティングだった事を覚えております。40才であさかの里に入職した頃は職員三名でした。大変な事も多々ありましたがこの度50周年を迎えることが出来て感動しております。

あさかの里のメンバーの皆様、職員の皆様には本当にお世話になりました。心より感謝しております。

今後のあさかの里の発展・成長をお祈り申し上げます。

# 未来 ~この先に向けて~

暁紫舎



あらいぶ・ぱれっと



第二暁紫舎



すまいる



グループホーム



令和 6 年度あさかの里だより広報委員  
山田美紀子・新田美和・関根亜矢子・石黒貴之・山内誠也